

# 短期投資と長期投資

---

与沢翼 2017年最新版

第1話 投資家脳と消費者脳

# 投資家脳と消費者脳

---

成功するためには、投資家脳を作り上げる以外にはない

- ビジネスが上手になってもアッパーが限られている。

投資家脳は、元々備わっているものではなく、後天的に作り上げない限り手に入らない。

- 元来、先進国の環境とは消費脳を刺激するように構築されている。ゆえに、消費者脳になりがち。

消費者脳の行き先にあるのは、消費→稼ぐ→消費→稼ぐを繰り返し、貯蓄がほとんど残らないという結果になる。

- 入りより出を少なくして、期間継続し貯蓄できる人も当然中にはいるが、問題はその額とその後にある。その額が少なければ、結局いずれはその貯蓄を切り崩して消費に回す日がやってくる。また、貯蓄があっても、それを増やす方法を知らないため、貯蓄から自由を手に入れる、というプロセスにつながっていかない。

投資家脳になると、稼ぐ → 使うよりも投じる → より大きくなって戻ってくる → 再び投じる → また大きくなっていく というプロセスを経るため、やがて、無理せずとも生活水準が上がり、さらに、義務としての(生活のための)労働をする必要はなくなる。

# 短期投資とは何か？

---

これからいくつかのビデオを使い、短期投資の本質をお伝えする。

まず、今日の講義で覚えておいて欲しいことは、以下の概論

短期投資とは、値動きを利用して、差益を積み増すこと

相場予想については、最終的には、常に100%は的中させられない。

これは天才であっても同じ。現にジョージソロスは、トランプ相場にショートをかけて1000億の損失を計上したと報じられた(もっとも、本人にとっては、資産(全体3兆円程度)の一部であり、これも短期投資の結果としてその額を許容できる限度であったものと思うし、短期投資では損を出してもそれ以上の益を得ることができれば良いので、この一事をもってソロスがダメだという議論にはなりえない。)

相場予想に従い張ることは、投機的手法であり、カジノに近い性質を持つ。勝つこともあれば負けることもある。

そこで、値動きには決まりごとがあるため、それに適切に対処するという方法論が、最も正しい。また短期投資の対象としては、為替取引のみがベスト。それらの理由や、値動きの理論について、これからの動画で証明していく。

# 長期投資とは何か？

---

投資という言葉は、もともとは、長期投資を指すものである。短期投資が乱高下する値動きを活用した一種の鞘取りであるとすれば、本来的には、投資とは、全て長期的なものを指している。短期投資の方こそがイレギュラーなものでもある。よって、最終的には、全ての人は長期投資に向かう必要がある。

まず、長期投資の対象には、国債、社債、投資信託、定期預金、不動産、株式、エネルギー、貴金属、穀物、外貨投資(為替保有)など多様なものがあるが、今後、長期投資の対象としては、株式以外を全て無視して良い。なぜなのかは、これからの動画でこちらも証明していく。

では、長期投資としての株式投資の本質は何か？というと、それは原則、上場銘柄の中で、今後、株主資本を大きくしていくであろう銘柄を、予測することである。簡単に言えば、年間純利益を増やしていく企業に投じれば、その時期は不明であるも、必ず株価は上がるということ。しかしながら、これには条件があり、純利益が増えていく蓋然性が高くとも、株価が高い時は、買い付けしてはならない。では、何をもって安い、高いと判断するのか？それをこれから説明していく。

株で成功する手続きは2つ、1つが純利益を増やしていく企業を見抜く技術、もう一つは、その企業が割安か割高かを判定する技術。補足するならば、その企業は投資家を見ている経営者であるかどうかについても、最後に見る必要がある。

# GWBSのコンセプト

---

成功者になるためには2つの段階を経る必要がある

## 第1段階

- 1、ビジネスで成功する(ただし、限界があるので、結局は第2段階の投資に移行する必要性が生じる)  
あるいは、
- 2、短期投資で成功する(短期投資の対象はFXに絞るべきである、理由は次回明快に述べる。)

## 第2段階

- 大きな元手を株式に全額投じる(長期投資の対象は米国株式に絞るべき、その理由も次回述べる)

GWBSでは、短期投資の値動きへの完璧なる対処法を教え、長期投資では、株式のみに絞って、銘柄分析(自分が気になった銘柄が安いか高いか、あるいは、買いなのか否かを判定する技術)を教え、何を買えばよいのか、いつ買えばよいのかを極めていただく。

次回以降の動画で、さらに詳細や内容を解説していくので、お楽しみに。